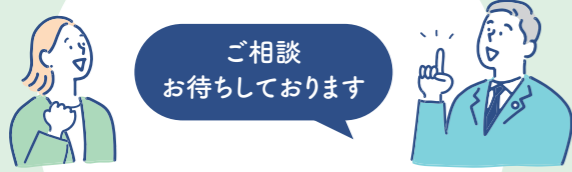


無料法律相談会のお知らせ

弁護士による無料の法律相談会を定期的に行っています。ご相談は事前予約制です。医療福祉問題に限らず、ご相談が可能です。ぜひ多くの方にこの機会をご利用いただきたいと思っております。ご相談お待ちしております。



5月12日
13:00~**金**

6月9日
13:00~**金**

けやき総合法律事務所

早稲田の杜法律事務所

※相談終了時間は相談希望者の人数等によって異なります。

会場 熊谷生協病院

予約 熊谷生協病院 医療福祉相談室
松本・佐藤 ☎048-577-7625

新任医師挨拶

揚野先生



初めまして。川口市の埼玉協同病院から参りました、総合診療・家庭医専攻医の揚野 佳太(あげの けいた)と申します。今年度より医師4年目になります。出身が羽生市なので、熊谷市を含む北埼玉には小さい頃から慣れ親しんでおり、のどかな土地柄が気に入っております。熊谷生協病院も実家から車で通える範囲内にあります。

総合診療医・家庭医というのは、地域の方々が住み慣れた場所で穏やかに過ごせるようにサポートすることを専門としています。病気や健康のことはもちろん、家族や生活のことなど、様々な相談に乗って一緒に考えていけるような関係性を皆様と築くことができればと思います。半年間の短い研修になりますが、近隣の病院とも連携しながら、地域の拠点病院である熊谷生協病院で活躍できるように頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

5月

外来診療のご案内



総合案内 ☎048-524-3841

受付時間	月	火	水	木	金	土
内科 午前 (8:15~11:30)	宮岡 揚野	鷲塚 平澤 田中(豊)	鷲塚 遠井	宮岡 鷲塚 岡本 田村	古市 田中(豊) 金子 大館 (隔週) 吉本 (隔週)	大館 (隔週) 草野 (隔週) 田中(建) 新井 (てんかん外来) (第4)
	午後 (14:00~16:00)	休診	休診	休診	田村	休診
専門外来 午後 (14:00~16:00)	鷲塚 (頭痛・めまい 外来)		鷲塚 (もの忘れ・ 小刻み歩行外来)	岡本 (糖尿病外来)		
小児科 午前 (8:30~11:00)	小堀	新井	遠井	平澤	小堀	松本 (第1・3) 吉本 (第2・4)
	午後 ※予約制	予防注射 乳児健診		アレルギー 外来		1歳6ヶ月 健診 3歳児健診
胃カ メラ	午前	○	○	○	○	
マンモ グラフィ	午前	○	○	○	○	

※担当医師は都合により変更することがあります。ご了承下さい。

在宅医療に関することは在宅医療支援センターまでお問い合わせください

☎048-577-7625

通院が困難な方の定期診察時に無料で個別送迎を行っております。通院にお困りの方はご相談ください。

●休診日/日曜日・祝祭日・土曜日午後

●休診のご案内
5/18(木)鷲塚先生 休診



2023年5月号 (No.362)
デザイン: 株式会社コア

発行 熊谷生協病院広報委員会
住所 〒360-0012 埼玉県熊谷市上之3854

熊谷生協病院
熊谷生協ケアセンターからの笑顔になるおたより

2023
5
No.362



宮岡啓介 院長

就任のご挨拶



この度、熊谷生協病院の院長に就任しました宮岡です。前任の小堀院長の後を引き継がせていただくこととなりそのバトンの重さをひしひしと感じています。小堀院長は埼玉県北部の地域医療の先頭に立って、熊谷医師会をはじめ近隣の病院や医療機関との連携を重視した活動をされてきました。小児科医でありながら、小児の在宅医療のみならず、同時にご高齢者の訪問診療を行い、北部地域で必要とされている医療の発展に携わって来られました。地域の医療機関が連携し地域住民を支えていくという医療体制は我々埼玉民医連がまさに目指している医療であります。今後も同様の姿勢を保ち、熊谷生協病院および埼玉県北部地域での医療活動の発展のために頑張りたいと思っています。

さて、2019年の暮れから新型コロナウイルス感染の波が訪れ、その後3年間は異常な年の連続でした。多くの方が病に倒れ死んでいったという事実は隠しようがありません。コロナの打撃は貧困層ほど大きく、世界中に多くの格差と分断を生みました。日本では第8波が訪れ死亡者数が過去最多となり、そのほかにもクラスター発生数や救急搬送困難事例も過去最多を記録しました。感染しても必要な医療が受けられず、救急隊が搬送すべき病院を見つけれないという医療崩壊の現実を突きつけられた年でした。その背景には、日本の医療体制があまりにも脆弱であることが挙げられます。日本の医師数は人口千人あたり

2.4人で、OECD(経済協力開発機構)加盟国の平均が3.5人であることから計算すると日本ではあと14万人の医師を養成しないと世界の平均には追いつかない状態と言えます。保健所の数も1994年に849ヶ所だったものが2020年には469ヶ所で45%も減少しています。さらに公立国立病院数は1822から1524と約300病院がなくなりました。「コロナ禍」とは医療の逼迫にほかなりません。現政権はこうした状況を打開する策もなく、逆に地域医療構想という名のもとにさらに440もの公的病院の統廃合を進めていく方針を示しています。大軍拡、増税をするよりも、まず国民の命と暮らしを守る政治を行なってほしいと切実に願っています。

先日亡くなられた大江健三郎さんは「九条の会」の呼びかけ人となり、戦争反対と核廃絶を訴えて来られました。大江さんの文学と社会運動の両者に通底しているのは、人間性の回復を追求する姿勢だと言われています。コロナ禍やウクライナ戦争で世界が分断され、大きく揺らいでいる時代だからこそ、「自分以外の存在に想いを寄せ、弱者と共生する」大江さんの精神の根本に立ちかえるべきなのかもしれません。

私たち熊谷生協病院は、「まずみる、援助する、なんとかする。」という民医連魂をモチベーションとし皆様の命と暮らしを守るための活動を続けていきたいと思っています。



熊谷生協病院

診察・訪問診療・入院・健診・デイケア
☎048-524-3841

熊谷生協ケアセンター

ケアマネージャー・訪問看護・訪問介護・小規模多機能居宅介護
☎048-524-0030

医療懇談会を開催しました。



2月24日、3年ぶりに医療懇談会を開催しました。「さあ始めよう、人生会議」というテーマで小堀先生による講演と、「もしばなカード」の紹介・体験を行いました。当日は病院と深谷会場とをオンラインでつなぎ、35名の参加がありました。

人生会議とは通称ACP(アドバンス・ケア・プランニング)のことを指し、もしもの時に備え、ご自身の大切にしていることや望む医療ケア等をご家族や信頼のおける人と話し合っておくことを言います。

超高齢社会・多死社会を迎え、2030年には年間40万人が看取り難民になるとの予測があります。多くの方が自宅での看取りをせざるえない状況が想定されています。

講演では「疾患別の終末期の経過の違い」、「終末期・看取りの医療」、「終末期医療要望書の作成」、「生きることをどのように考えるか」等についてお話がありました。

「終末期と聞くと暗くなりがちですが、今までの人生を振り返り、今後の人生をどう生きるかを考えることでもある」という小堀先生の言葉を聞き、参加者からは「とても前向きになるお話でした」と好評でした。その他にも「今回の講演をきっかけに家族と話したいです」、「人生会議を積み重ねて最期を迎えたいと思います」、「残りの人生を明るく生きていきます」と多くの感想が寄せられました。

最期の死に様を考えた時

- ◇どう生きて来たかを考える。
- ◇四苦八苦しなから生きてきた。
- ◇やっておきたいことを考える。
- ◇人生の最期を考えることはどう生きるかを考えること

もしバナゲームとは

「もしバナゲーム」には1セットに36枚のカードが入っています。そのうち35枚には重病のときや死の間際に「大事なこと」として人がよく口にする言葉が書いてあります。

例えば『どのようにケアしてほしいか』、『誰にそばにいてほしいか』、そして『自分にとって何が大事か』といった内容です。そのカードの中から「自分が余命半年だと宣告された時に大事にしたいと思う事」を5枚までという制限の中で選んでいきます。

「人生の最期にどうありたいか」という多くの人が「大切だとわかっているけれど、なんとなく縁起でもないという理由で避けている…」そんな話題をゲーム形式で考え、話し合うきっかけをつくるためのツールです。



体験ではカードの内容を慎重に選ぶ様子が見られたり、和気相合と楽しそうに進めているグループもありました。職員は各グループの交流に加わり見守りを行いました。

このゲームで人生会議の入り口が少しわかった気がする」、「一人暮らしの方を多く見かけるので、これからは話し相手になりたい」、「普段は意識していないが必ず来る事なので、近く感じてさみしい」、「夫の声にも耳を傾けたいと思った」などと参加者からたくさんの感想をいただきました。



もしもの時に備え、自分の気持ちを考えて意思表示をし、話し合うきっかけとして「もしバナゲーム」をご活用ください。当院では引き続き地域でのACP普及活動を推奨していきます。

退任のご挨拶

組合員の皆様、長い間お世話になり誠にありがとうございました。

総看護長として約7年間熊谷生協病院にお世話になりました。7年の間に、熊谷生協病院附属施設「くまここ」が新たに建設され、熊谷の地に高齢化社会を担う介護施設ができたことを大変嬉しく思います。また、2024年度には柿沼に新たな施設を開設することが決まりました。ますます発展する熊谷を見ることができず、とても残念です。

皆様に支えられながらここまで来ることができました。この間、新型コロナウイルス感染症の流行で病院は大きく変化し、受診方法変更や入院患者様の対応、組合員活動の減少など、問題も苦難もありました。しかし、組合員の皆様のご理解、ご協力により乗り越えることができました。

4月1日より「老人保健施設みぬま」に異動となります。熊谷生協病院で学んだ多くのことを生かしながら、新たな職場でも頑張っていきたいと思っております。熊谷生協病院勤務中は多くの皆様のご厚情を賜り勇気をいただきながら仕事を行ってまいりました。新たな総看護長にも皆様のご支援のほどよろしくお願いたします。

病院運営は今後ますます厳しい環境に置かれようとしています。熊谷地域で子供からご高齢の方・障害のある方が居心地よく暮らし続けられるまちづくりを進めるために、これからも組合員の皆様のご協力をいただけますと幸いです。



医療生協さいたまの看護部として、「地域とともに産み・育み・看とる-コロナ禍でいのちと向き合う-」という本を出版しました(税込1,200円)。ご興味のある方は病院までご連絡ください。

看護部より本の紹介

熊谷生協ケアセンターだより

新規事業 2024年4月

(仮称) 柿沼生協ケアホーム

OPEN!

小規模多機能型居宅介護(小多機)

29名定員

認知症対応型共同生活介護(グループホーム)

18名定員(9名2ユニット)

現在、組合員さんと職員で、建設委員会を開いて施設イメージや施設への想いを共有しています。地域のみなさんが気軽に立ち寄れる場所となるように、どんな活用方法が良いのか話し合いを重ねています。

4月下旬頃から、建設予定地(柿沼)周辺の皆さんとタウンミーティング(対話集会)を開いていきます。「お住まいになっている地域の状況」「みなさんの希望のまち」など、ご意見をお聞きしながら、みんながゆるやかにつながるそんな施設づくりを一緒にしていきたいと思っています。

